琉球大学学術リポジトリ

復帰準備2

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-01-29 キーワード (Ja): 復帰準備, 沖縄の諸制度, 沖縄復帰準備委員会 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43399

安全保障課長

事務次官
外務審議官
外務審議官
官房長
官房総務参事官
書記官

秘
無期限

情報文化局長
参事官
報道課長

大臣記者懇談要旨　（5月6日）

1. 大臣の東南アジア出張

シンガポール、マレイシアでの要人との会談は、勿論中国問題が中心であった。マレイシアについては、中共側が非常に積極的で政府とは全然関係がないということで19人の有力者をマレイシアが中共に送るなどは、一時の日本の状態を想起させる。華橋の中にも台湾派が相当おり、こっちの方にもいい恰好をしなければならないし、中共とも大いにやりたいし、マレイシア政府もなかなか難しいところにいる。

シンガポールは、マレイシアよりもっと台湾寄りで、中共寄りの有名なジャーナリストを逮捕したりしていた。マレイシアは、中共、台湾ともに未承認だが香港に総領事館でも置こうかというところらしい。

両国において、中国代表権問題を大いに話した。これは、むしろ先方が、日本がどうするかを知りたいということで、日本の態度についてゆきたい空気がなんといってもつよかった。二重代表権の話も出た。しかし、両国とも私と中国問題についてどういう話をしたかは云わないでくれということだったので、現地での記者会見でも、これだけは勘弁してくれと断ったし、本省への電報にも出していない。

2. 沖なわ返還協定交渉

マイヤーとの会談も、もう少し詰めないと……。明日を含めこちらは

いつでも会いたいのだが向うがなにかお土産を持ってきてくれないと…。

マイヤーとの会談は1回ではすまないのではないか。あとの方でばたばたと

会うことになるのではないか。VOAについての日本の態度は向うもよく

分ったようだし、早く譲っては損をする。最后の若干にとっておかないと

他のことが苦いいことになったらそこで勝負するというのがいいのではないか。

いろいろな見方もあろうが、VOAを除いては、だんだん詰まってきたと

云えるかも知れない。~~ただ、他のところがもう少し詰~~ マイヤーとの

会談は、明後日を含めて希望を出してある。だから明後日にでもあるかも

知れない。

年内批准は難しいという頭道とか、今度のタイムの記事とか実に不愉快だ。

最近は、訪問の様会も沢山様っようにしているし、タイムの記事は

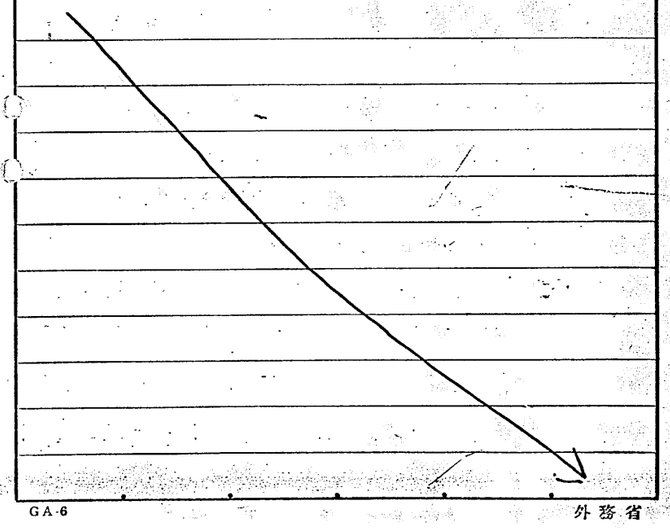
少しおくれているのではないか。本来あのような記事は、2〜3ヶ月前

に出るべきものではなかったのか。

協定調印は、5月は無理だが、私がかねてから6月早々と

いっているのは、参議院の選挙もさることながら、OECD関係会議

との関係もある。



3. OECD関係会議.

日独定期協議が二つ時期にあるし、今度のOECD関係会議は各国とも外相が出るようだし、私が出ないのは工合がわるいとも思うが、国内的に、経済関係で出たいという人もあり調整は内閣に任かせる。今度の関係会議は、国によっては、ガットなんかもう駄目で、日本は、OECDを主舞台に主導権を発揮するであろうとのなんとはなしの見方をしていようで、こういう思い過しを解明する必要もあり、そういう意味で大事な会議だと思う。それに繊維問題も未だ生きているみたいなところもあるし…。それに各国の外相が来るのであるから、それこそ重大のことを話すのにも絶好の機会であるし、私としては行きたいと思っているのだが、兎に角、内閣に

決めてもらう。ロジャースもヒュームも来るし、また、ドイツは国連加盟国ではないが将来のことについてどう考えているかを知ることも出来るし…。

左もドイツとは定期協議の時にこの話は出るだろうが…。

沖R

0114

事務次官
外務審議官
外務審議官
官房長
官房総務参事官
書記官

アメリカ局長
安全保障課長

秘
無期限

情報文化局長
参事官
報道課長

大臣記者懇談要旨　（2月10日）

1. 元決済

私も圣緯をよく知らないが、中共としては、経済的な狙いのみならず、面子のような政治的狙いもあるのではないか。

2. 沖縄返還交渉

スナイダーは5日に帰国し、2週間位ワシントンに滞在して帰任すると思うが、帰ってくれば協定調印

をいつ頃できるか大体見当がつくのではないか。

私も、2、3の問題についてどうしようかと思っていることがあるが、スナイダーは問題点をよく知っているし、ホワイトハウスともツーツーだし、方々走り回ってくれるだろうから彼が帰ってくれば、米の考え方もはっきりしてくるのではないか。それまでは、協定案そのものが固まらない。

返還に際し、一番の問題は、どれとどの基地を提供するかを決めることだが、いちいち細かく協定に書くわけではなく、これはむしろ政治的な問題である。協定そのものの周辺の問題としては、中小企業や自由職業の取扱いをどうするかということがある

提供すべき施設区域

返還と同時に本土の法令が適用となるので、過去

米民間人の営業（弁護士、医師等）

25年間米の資格でなんら差しさわりなく営業して

きた食料品屋とか弁護士、医師、獣医等は資格

がなくなるので、非常に不安がっているのは無理も

ない。たとえば弁護士で実際に開業しているのは

6名だそうだが、登録しているのは30数名だ

そうで、その中にはニクソンや上院議員の親類もい

るという。協定が上院にかかるとなると言の多数

が必要なので、上院議員1人1人の好意を取付

けなければならず、このような観点からも、中小企業

とか自由職業については、~~特に~~ 必要な場合には 立法措置はとらないが なければならない

できる限り 暫定的な行政措置で何年か引続き営業を認め、その間に必要な資格をもらうということにしたいと思い、関係大臣の了承を得てあるが、各省の事務当局はなかなか難しく ~~強硬で~~ またまとまっていない。本土並みというのは大変な作業なのだ。協定上の問題ではないが、協定のために地均らしが必要な問題が沢山あるのだ。

大きな企業は、返還と同時に本土の外資法を 外資

適用させる、すなわち復帰の日に許可を受け、その日から本土の税金を払うということで生ず大きな問題はないと思う。

請求権、補償

請求権、補償の問題は、日米双方とも平和条約19条は沖縄にも適用するという見解で一致しているが、現地の革新派の人々は平和条約そのものを認めないので話にならないが、請求権を米に放棄しても、請求権者に対して日本政府が補償する道はあるのである。これは立法院の人たちも分っているのではないか。お前ら腰抜けだから米からとるべきものをとらないといわれるかもしれないが、本土政府と請求権者の問題になってくるわけだ。

米資産で今後末長く沖縄の民政安定のために

米資産の処理

使うものについては、多少で召し上げるのは出来よすぎると思う。しかし買取りという表現は使っていない。有用なものについては、若干の支払いをすることもあり得るという表現を使っている。これだって感情的に腰抜けだといわれるかもしれないが沖縄県民の損にはならない。本土の税金で払うし、それだからといって沖縄への援助を減らすわけではない。支払いがドルで行なわれることになれば協定上に書かざるを得なくなるかも知れない。いずれにしても全然書かないわけにはゆかないのではないか。

アメリカ局長

安全保障課長

大臣秘書官	事務次官	官房長	情文局長
	外務審議官	官房総務参事官	参事官
	外務審議官	官房書記官	報道課長
			国内広報課長
			海外広報課長

外務大臣記者会見記録（5月11日）

（閣議及び愛知マイヤー会談後）

大臣「沖縄返還（協定問題）についてマイヤー大使と今朝10時から約2時間会談した。問題点をよせたら洗いきらい全部の問題をカバーして意見交換をした。大体、よかろうと思うところについては文言の作成に入った。大体話がよって来たところを文章にしてみればこういうことに

アメリカ局長、北米一長、安保長、条約局長、条約長、法規長

なるというようなことから逐次入って行く。相当なところは事務当局に案文作りをもう少しまかせてやってみてよいと思う。VOAなどはまだまだ対立している。これまでの進み工合をどう評価するかについてマイヤー大使はモデストな進行状況と言っており私もそう思う。非常にスピーディとも遅れているとも言えない。そういうことだから調印の時期については双方とも言い出していない。中味に関連するからあせっては損をする。

これを裏から言えは まだ話まらないところ

がある程度あると理解してもらってよいと思う。

今まで想像されている以外の問題でしかも

それが大変な話題になるような事項は

最早ないと考えてもらってよい。例えば

共同声明で国会で種々問題にされたが

いわゆるベトナム再協議條項等の再協議は

全然予想されなくなった。何もなくて

すむと思う。」

問「VOAは依然原則論でやっているのか」

大臣「そうだ」

問「今日の段階で問題点をしぼくって問題点は

これとこれというように確認し合ったのか」

大臣「Aからzまでずっと広範囲に問題は

あるわけだが、これ以外にはないことを確認

し合った。」

問「VOAを除く実質的な問題について米側

からかなり明確な回答があったか」

大臣「あったものもあるし、こちらが期待する

程度のものでなかったので更にやり返えしたもの

もある。」

問「民間航空の扱いについて結論がいたもうは」

大臣「もうこれは殆んど問題ないと思う。

（5年間の期間ということだがという質問に対し）5年

間というのは今出ていないが、こちらの関係省

と米側専門家との間で話がまとまったような

ものは愛知マイヤー会談のテーブルにはのって

まないから…」

問「請求権はまだか」

大臣「まだ片づかない。」

問「目玉のろは」

大臣「欲を言えばきりがないから…、

また こちらは下りていない。」

問「国会の中間報告のろは」

大臣「20日過ぎにはやらざるを得ないというのが私の心境である。20日現在でやれることは

やりたい。条約の扱いの傳統に反する

やも知れないが、何んといわれてもありのまま

報告する道を選びたいと思う。」

問「中間報告の前にマイヤー大使と会われるか」

大臣「たゞ マイヤー大使は明日からアジア大使会議に行くから…」

大臣「閣議では申し上げることは何もなかった。閣議後グレープフルーツについて~~相談~~話があったが、私はマイヤー大使との会談があったので後は閣僚諸君にまかせて出てきた。」

米保課長

事務次官
外務審議官
外務審議官
官房長
官房総務参事官
書記官

秘
無期限

情報文化局長
参事官
報道課長

大臣記者懇談要旨　（5月17日）

1. 沖なわ返還協定交渉

（SR71機について米の保証を求める云々と云われたが具体的になにか考えているかとの質問に対し）

U2機の前例もあるしね。

マイヤーが昨日から2～3日いないし、後がいたにしてもワシントンからの訓令待ちの状態だから、私は焦っているが、なかなか直詰まらない。

向うもなかなかクリーアカットな態度に出て来ない。

私に云わせれば、あるいは省内の人からは叱られるかも知れないが非常に難しいのは対米請求権問題だ。これは条約的法律的な考え方だけでなく、アジア的発想で沖なわの人たちのために誠意もつくしてやっているが、こういうことになるとアメ公は分らないねぇ…。

日本の法律家にも分り難いらしく、ある意味では日米のエキスパートは同じ立場に立っていると云えるかも知れない。これは同時に日本政府部内の大問題で、核抜きとか本土並みははなやかな評論かも知れないし、基地の態様だって那覇空港の問題だってなんとか目鼻がつくと思うが、なんといっても沖なわの人にとって必死の問題はこの請求権ではないか。これがとっても難しく、詰まっていないのだ。VOAの問題についての私の気持は、中間報告で云っている

とおりで、食物しなければならないが、その場合でも判定として認め
るのではないのだから御理解頂けると思っている。あそこの従業員とか
地主はむしろ置いておいてもらった方がいいと考えているようだ。

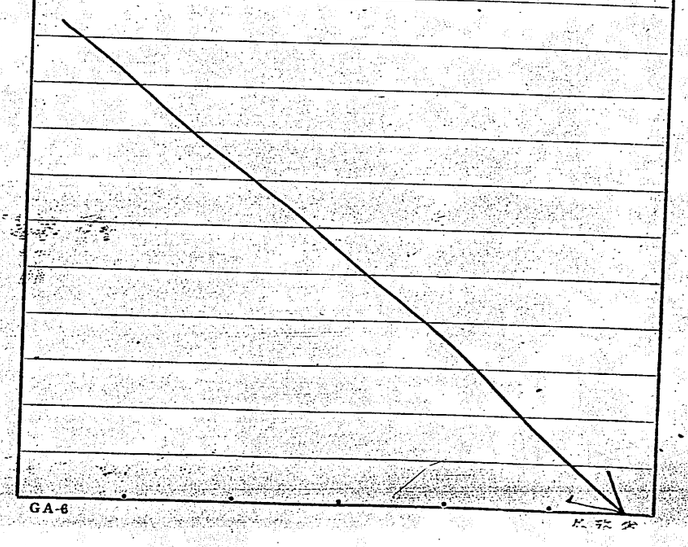
従来本土ではジョーナリズムは、諸種の問題をあまり取り上げていない
が、私はかねてからこの問題が大変だと思っているので、アンをおこ
しているわけだ。

享外耕利権の問題がさらっと云っているのは、司法のあり方が
問題になっている折から、意外な位だ。

特殊部隊の問題は、ヴィットナム再協議が忘れられてきているのと
同じように、こっちがあれなどいやだと云っているのに返還時に
了承している筈がない。それを今いることと問題をすりかえてもんわん

云われるのは全く積にされる。返還の時とを比べて話をしてもらいたい。

ヴィットナム再協議は、向うとしては、返還の時に話したいことはあった
ろうが、こっちは、事前協議の予約ではありませんよと云ったので、なにを
協議するのか訳が分らなくなった。そして、協議の必要はないと
いうことになったので、もうあまり思い出させないでもらいたいものだ…。



2. 大臣の日程（OECD関係会議等）

私は6月の最初の土曜か日曜か（5日か6日か）にヨーロッパに発ちたいと思っている。~~[illegible]~~ 日英定期協議は10日と11日に決まった。日独定期協議の方はその前に決まって14日と15日その間土曜日曜があるだけだ。

OECD関係会議の方は、今日位に決めてもらいたいと云っていそのでもう決まったかも知れないが、私は、かねて佐藤金庁長官にお願いしたいと思っていた。ただその時期に私がパリに行っていればロジャースに会えるわけで、私はOECDへの代表にはならないが、OECDの会議には出席する。向うは、代表として扱うだろう。私のそもそもの考えは、昨年はOECDの会議は通産相にお願いした

が、外務大臣だけでとてもこなせるものではなし、皆で手分けしなければならず、数今年も経済関係の進かに頼もうと思っていたが、たまたまロジャースが、自分が評長になるから、お前も来ないかと云って来たので、丁度日英、日独定期協議もその頃ありそうだったし、それではその頃行きましょうと云った次第で、OECDの会議よりロジャースに会うことの方が大事なのである。

ロジャースとは、諸協定調印ができて有難うから始めて諸般の日本関係の話をしたいと思っている。

しかし、相手があることで調印がいつできるか私にも本当に分らない。

日英定期協議の10日11日は確定的だ。御訪欧のはなんと

いつも英国が中心なので今湯川大使に一時帰朝してもらっているが、
先刻早速会ったら、ダグラス・ヒュームが同大使に、出発直前、日英定期
協議は10日11日に是非やりたいと云っていたようだから間違いない。
さつき、定例の月曜の官房長官との協議から帰ってきた森
次官から、私は韓国大統領就任式はどうするかということ
だったが、総理が行かれれば私は行く必要はないと思う。前例
もそうだ。この前は、椎名前外相が特派大使で、それに2、3の人
が顧問ということで行ったのだし、その前は、大野伴睦さんが
正議使として、それに2～3の人が顧問として行ったのだ…。
今度も特派使節団をお招びしたいということだから1人では工合
がわるいし、総理に就するに特派大使その他をもってすればいいので

大統領就任式に総理のほかに私までゆく必要はないと思って
いる。もし総理が行かれないのなら私が政府代表としてゆくのが
当然であろうが…。特派大使は、関係ではない方がいいのでは
ないか。三木さんが行ってくれるのがそれでもいいが、韓国の趣味も
あるかもしれない。
私がヨーロッパにゆく時、経済局長は、OECDの責任者だし、
佐藤長官に副愛する。
定期協議は、私1人で大丈夫だと思うが、外務省の体制の
問題もあろうから、随行者は、次官に決めてくれるよう云ってある。忙しい
時期に1週間も行ってくれとは私からは云い難い。

安全保障課長

大臣秘書官	事務次官	官房長	情文局長
	外務審議官	官房総務参事官	参事官
	外務審議官	官房書記官	報道課長
			国内広報課長 海外広報課長

外務大臣記者会見記録（5月24日）

沖縄返還交渉（マイヤー大使との会談）

大臣「今日のマイヤー大使との会談は、沖縄返還協定の仕上げに入った段階に来たので実質的な問題として、VOA、P3、対潜哨戒機、請求権の三つを中心に、その後の双方の考え方に基づいて意見の交換と検討を行なった。

交り方局長、北米一長、毎月長、手続局長、手続長、法規長

GA-5 外務省

今日は以上の三問題についての各々の問題点を点検して出来るだけ歩み寄りにつとめたが、本日の会談だけでは結論が出なかった。また再度会談をしようと言うことで、次回会談の日取りは決めなかったが、勿論今週中に会うことになるかも知れない。

今日はまた以上の三つの問題以外にもすべての問題にもふれた。

GA-6 外務省

今日の会議の時間は短かったが、ことにもよる所

対立している所は未だ対立して

おり、先方は未だ本国か

ら回答がこない点もあり、あまり交渉は

進捗しえなかったが、

[redacted]も出来るだけスピード

したいのは双方とも同じ気持である。

アップ[redacted]

[redacted]。

この様な状況だから調印

日を何時にするか等[redacted]は

未だ分らないが、出来るだけ早く

とりまとめの段階に入ろうと

言うことに双方とも合意している。

この様に実質的な問題に

ついてもうすし精力的にや

らなければならないだろう。

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

[redacted]

先方はスナイダー公使も出席

していたし、問題点は[redacted]双方

彫り
さん
=とって浮[redacted]に[redacted]て来ている。」

問「今朝保利官房長官とお会い
になった際、核抜き返還の
趣旨をもっと明示したいとの
ことだ(つたそうだ)が…。」

大臣、[redacted]

「要するに核抜き、本土並、72年
返還とそれを出来るだけ

念頭においてやると言うことだ。」

問、「三つの点について問題点を
点検すると言うことは、その中に
双方の態度特にVOAの(に関する)対
立[redacted]は可成りあるのか。」

大臣、「これは先程[redacted]象外妻[redacted]でも
可成り言ったつもりだが、(米側は)こちらの
態度(及び)方針を相当に理解し
てきていると[redacted]思う。しかし、
双方共ギリギリの所まで[redacted]
わかりかけて来た所でもう

会ってみなければと言うことと、ーフー

少し話してみたいと[redacted]

本件交渉の決定は

米国の場合は、明らかに本国

[redacted]

マターである。[redacted]マイヤー、

東京で

スナイダーがもっともだと言っていても[redacted]

本国に通じなければだめだ。」

問「今日の会談に基づいて先方

が本国に請訓するという

形になるか。」

大臣「すでに請訓しているが未だ

回答がこ[redacted]ないと言った方が

より正確だ。」

今日の　の結果　ーフー

問「これから、会談について

総理ほか関係閣僚とお会い

になるか。」

大臣「いづれやる。今日すぐには

会う必要はない。」

対米

問「P3と請求権についての回

答は来たか。」

先方も　コダシ

大臣「まあー、~~向こうも~~ 小出しに

やっているから、ないと言えば

嘘

[redacted]となるし、来たと言えば

取

それを受け[redacted]るかと言う質問

になるし…。そうはいかない。」

問「今日の会談は、これまでの交渉を踏まえて日本側の要求を整理して出したのか。」

大臣「今日は双方とも ペーパー等用意していないし、口頭だけでやった。」

問「これまでの会談は、米側からの訓令をまって会談を行なって来た様だが、今回は新しい訓令がない段階で本日行われたのは…。」

大臣「マイヤー大使は4日半位バギオに出張(米側のアジア公館長会議)していたし、その間、来ているものもあるし、当方も色々相談して来た。この一週間位の間に双方の間に相当の進歩があった。こちらは、国会をずうっとやって来たし、その間、中間報告をやったという事は非常によかったと思うし、また私としては屋良主席、琉球立法院議長、沖縄復帰協代表等と

会ったことは、[redacted]よかったと
思う。徐々に段取りだけは
出来上っている様に思うし、中味
について批評や反対があるのはある程度
止むを得ないと思う。そこは
交渉に当る者の責任で[redacted]
仕方がない。
頑張りに頑張り抜いてこちら側
としてもあらゆる方々の意見を聞
いて、それを踏まえて取るべき
[redacted]態度だけは最后まで

貫きたい。」
問、「調印日は双方共大巾に遅ら
させなければならないと言う認
識は出ていないか。」
大臣、「ない。私の態度としては、
何人といっても、いやなお遅還は歴史的な問題
だから、OECD、8者定期会議とか
はこれに比べれば関係国
には悪いが、日本の立場から
言えば、~~こちらは~~、はるかに比重
は低い。
~~が高い~~。

こう言う点において保利
官房長官は誠にその通りだ
から、しっかりお願いしますとの
ことであった。この様な点からも
私自身が調印が何時行なわ
れるか見込みはないが、
最善の状況になったら
1日も早く速やかにやりたい。
(了)

事務次官
外務審議官
外務審議官
官房長
官房総務参事官
書記官

アメリカ局長
参事官
安全保障課長

秘
無期限

情報文化局長
参事官
報道課長

大臣記者懇談要旨（5月27日）

1. 党首会談

今までより少し出ていっていると思うのは、核について、次のように説明ないし返答している点だ。すなわち、沖なわ返還については、共同声明から具体的協定作りが始まったし、サブスタンスとして、第6、7、8項の精神を貫きたいので、いろいろ考えた結果、第8項がなんらかの形で協定の中に取り込めるよう今最大限の努力をしていると云った。

成田君は、総理のテレビでは、財政とか予算とか云っておられたが

GA-5

外務省

2

それと結び付くのかと云っていたが、~~総理は~~ 私から、いや必ずしもそうではない。そこに苦心が存するのだと云ったら、総理から、今君が云っていることは昨日僕が云ったことよりよほど進んでいるんではないかと云っていた。

基地の数は、どうなんだという質問があったが、これは勘定の仕方により違うんで、先ず日本当局間で勘定の仕方を決めて、それを甲乙丙に分けたい。返還の目玉は那覇空港だが、米はなんとかPBSの留保をつけてくれと云って争点の一つとなっていると説明しておいた。基地はある程度返るが、その数と面積は御満足頂けないかも知れないとも云っておいた。

特殊部隊は、原則的に米も話が分って来ているが、返還の際に本土

GA-6

外務省

並みになっていればいいので物によって保証求みたいなものを
とるものもあると云っておいた。

米企業のことは3党とも問題にしていたが、わが方の意図の表明
ですむ筈である。米大使館と会談した文書は、スナイダーが今朝那覇
の商工会議所を説得するため急に現地に飛んだ、この問題は
ほぼ大詰めに来たと思うと説明した。

調印の時期は5月中と思っていた時期もあったが、私だけの
感じでは6月に入ったら早くいつ調印できるか目途がつくだろうと
思う、そんな程度であると云っておいた。公明党の矢野君から
参議院選挙後になることもあるのかとの質問があったので、6月中
であることは間違いない。6月の早い時期に行われることを希望して

いると答えた。これは他の党だったかも知れないが、告示の日にでも
やるのかとの質問があったので、総理から、調印と選挙を故意に
結び付けるようなことはしないし、愛知君が云ったように告示の日とか
その直後は難しいのではないかと云った。告示の前には調印は
ないということは貴さんお分り頂けたと思う。

資産の引継ぎはこちらから積極的に説明したのであり、3公社の
ほかに全軍労の間接保護切換えはすなわち待遇改善になるので
その金も用意しなければならない。また、こうこういうものは出てゆけ
というし人、金を出してやらねばならないものもある。さらに米が埋
立てた土地をそっくり国有財産にするには金も出さねばならない。
それやこれやで払うべき金があるが、それらを合わせても5億ドルと

が6億ドルにはならないと云ったら、それ以上質問はなかった。

請求権については、平和条約19条で放棄しているが、その後米も見舞金を出したり、日本政府が予算で力金を出したりして、そしてある時期に打切られて不公平が生じている。そういうものについては米が支払うのが当然だから、そういうものは放棄していない。それから小笠原の協定にもあるように、すでに請求権ありとしてクレームを出しているものは米が処理すべきで、放棄すべきではないが、米も施政権を行使している間人身保護令だとかなんとか補償法があり、その都度きちんと処理している筈で、今あなたが持ってきた極大ないわゆる対米請求は米の態度に馴染まないというのが米のそもそもの態度で、これも理解ができるので、たとえば、賃借料を上げてくれというのも対米請求

で、地方と用地に法令がついてある程度高額の借地金が取れれば解決するので、私が国会で何遍べんも何べんも、こういうものは対米請求権というよりは対米請求というべきで、米が払い得るものもそうでないものもあると云ったのは、日本人のわれわれがこういう問題を温かい態度で取り上げなければならないということの伏線として云っていた源次第である。野党の皆さんもこの点は分って欲しい。この問題は、むしろ私の方が総理の方に陳情する立場だと云っておいた。

~~野党の人たちも~~

VOAは、どうも止むを得ない。ただ、一つの期限をゆずったらその後は絶対に残らない。残っている間は他国の神経を逆撫でするようなことはしないよう、黄組みに対しクレームをつけられるようにしておけば、これで全体のパッケージ・ディールがまと

まるなら止むを得ないのではないかと説明して置いた。ただ
これは未だ郵政大臣のO.K.をとっておらず、郵政大臣のO.K.を
とる前に總理のO.K.をとっているわけではないのですよと總理
の前で云って置いた。

民社の佐々木氏が、ジャットム条項をどうするかということを大きく
取り上げていた。社会党も成田氏だったか、ジャットム条項はどう
するのかと云っていた。これは、ペンタゴンの鹿工事を起したくないので、あまり外に云いたくないが、この場限り
にしてもらいたいと前置きして、あれは消えましたと云ったら、それはよかったと云
っていた。

中国問題は、社会党として中共から人を招ぶ以上条件
で認めてくれと云ったので、(郭沫若とかそういう具体的名前は挙げなかった。)

總理は相互主義でいかにゃと云ったら、相互主義とはなにかと
いうので、野田氏も行けるように君達も手伝ってくれと云っていた。

代表権問題はあまり出なかった。1つの案については、他の国に
同調を求める場合、賛成してくれなくてもせめて棄権でも
してくれる程度には協力してゆきたいものだと總理が云っていた。

安保を上回る云々と伝えられているのは、特殊部隊のことで
そう重大な発言ではない。

2、沖なわ返還協定交渉

今日党首会談を終えたので、以後9時から大藤大臣もかわって
外交、防衛会談をやって若干沖なわ問題も協議し、10時閣議
閣議後、おそらく郵政大臣と最後的に相談する。それから

12時半から、外務省事務当局の総理へのブリーフィングがあり、私も時間の都合がつけば出席する。そして、それを心に入れて4時半から愛知・マイヤー会談をやる。昨日では決まらないから、マイヤーとはなるべく時間をあけないでまたやる。総理には、協定案文も大分まとまってきたから、前文から全部、それに関連する文書を詳しく事務当局からブリーフする。来ものろいから、次回のマイヤーとの会談は来週になろう。その時結着がつくかは分らない。昨日のは短時間に終るかも知れない。スナイダーが昨日帰ってくれば、あるいは電話ででも云ってくれば米軍企業の問題は明日片付くかも知れない。

共同声明第8項は前文ではなく第○条第○項ということになろう。

SR71の保証は、協定発効の時までに出来ればいいので調印の時には出て来ない。

事務次官
外務審議官
外務審議官
官房長
官房総務参事官
書記官

秘
無期限

安全保障課長

情報文化局長
参事官
報道課長

大臣記者懇談要旨　（5月29日）

中なか返還協定交渉

日独定期協議だけは、気がせくので、延ばしたいと申入れたら、独もよく事情は分るので結構である。漸次延期しようという返事があった。できれば参議院選挙直後にでもということだが未だ決めていない。日英定期協議だけは予定どおりやって帰ってくる。OECDにも少し顔を出し、他の国の外務大臣位の人が来るようだから、いく人かの人とは会いたいと思っている。土曜か日曜に出発して、日曜に帰ってくるから

GA-5　外務省

丁度1週間位の出張になる。

調印が15日を含め15日以前になることは絶対にない。

昨日懇談の前后だったかロジャースから内々のパーソナルな連絡があってパリで会うことに承知してくれて有難かった。中なか返還のこともその他のこともお話ししたいと云ってきた。中なかについても若干文句があるのだろう。協定そのものかそれに関連するものかは分らない。

調印の場所についてのマクロフスキーの発言は面白いと思わないか。どうしても決まっているのではないということでなく同時にやることと決まってはいないと云っている。調印を東京でやることは間違いないが、向うもこの問題を重視しており、調印に対応してなにかやりたいということを示唆しているのではないか。調印を向うでもやることはテクニカル

GA-6　外務省

安全保障課長

大臣秘書官	事務次官	官房長	情文局長
	外務審議官	官房総務参事官	参事官
	外務審議官	官房書記官	報道課長
			国内広報課長 海外広報課長

外務大臣記者会見記録（5月28日）

（愛知・マイヤー会談後）

大臣「午後4時30分から約1時間30分マイヤー大使と会談した。その結果今なおある程度のへだたりがある。極めて順調に進んでいるとは思うが。

先程官房長官から出ていると思うが、總理も大切な条約だから時間ばかり気に

政務局長、アメリカ局長、北洋一長、安保長、西欧一長、西欧二長、経國二長

に云っておかしいので、まあ、声明を出すとかそういうことが考えられる。

ロンポースは固苦しい会議体でやるわけではない。西堀君がその時期にパリに行っているのかは知らなかったが、中国問題でどうということはないのではないか。日本間には色々問題もあるから苦情も注文もあろうし、なにが出てくるか分らないが、ロンポースは繊維問題は得意ではないから、これは出て来ないと期待している。

調印が15日以降というのは米の事情だ。理由は云えない。何うの事情によるということも絶対オフレコにしてもらいたい。交渉が煮詰まっていないことも事実である。米の事情は、日本政府としてもよく了解できたので、調印が15日以前にないことを昨日はっきり申上げた。こっちとしては選挙の最中で、こっちにあおられてしまうし、こっちとしては、拙い時期なのだが――。

しないで、とっくり十分に話をにつめてもらいたいということでもあるし、一方ロジャーズ長官が、かねて私とパリーで会いたいと言っていた次第もこれあり、總理の意図を体して8日パリーでロジャーズ長官と会談することにした。

従って調印は15日以降になることになろう。そのことをマイヤー大使との間でも確認した。

同時にこちらでの交渉もうんとワインド

アップしてパリーでいわば仕上げということにしようということになった。(マイヤー大使がパリーに行くという意味ではない)

ラスト・タッチをロジャーズ長官と愛知とでやっていたゞきたいというのが米側の希望でもある。

私としても大事をとりながら双方の外交最高責任者でコンタクトして最後の仕上げをするというのが矢張り一番良い方法だと思う。

従ってこれから爾余の日程も、こちら側は

4

総理も折角だから全部の日程をこなして帰ったらと言っているが、若干調整ができれば私も心がせくので、例えばある部分は少し先に廻わしてもらうことができれば定期会談などの予定を多少調整することがあり得ると思う。

GA-6

安全保障課長

大臣秘書官	事務次官	官房長	情文局長
	外務審議官	官房総務参事官	参事官
	外務審議官	官房書記官	報道課長
			国内広報課長 海外広報課長

外務大臣記者会見記録（5月28日）

（閣議後）

大臣「閣議では、OECDに佐藤企画庁長官が出席することに決定した他大蔵大臣から国際収支等について説明があった。

閣議前、9時から外交防衛協議会が開かれ沖縄の返還に際して、沖縄の局地防衛の責務を自衛隊が負うことは当然のことであり

アメリカ局長、北米一長、安保長
経国二長、欧西一長、欧西二長

GA-5

外務省

防衛庁として、沖縄の陸上防衛、海上哨戒
防空の任務につかせる自衛隊の規模、時期
等について関係閣僚（財政上の問題があるので今日は
とくに大蔵大臣も出席し、その他外務、防衛、官房長官
両大臣
と説明役に久保防衛局長）が協議し、われわれ
として了解と言えば了解したわけだが、これから
予算上の措置その他の問題もあるだろう。
席上、皆さんは沖縄関係閣僚だから、求めにより
昨日の三党省会談の内容やこちらから新たに
言ったこと等を私から話しておいた。

閣議後、総理に主催してもらって郵政大臣、
官房長官、私とで相談し、私から半側の
VOA問題について
態度、今の見通しを話して、VOA問題
については大体郵政大臣としては止むを
得ず私の説明を了承したと言ってよいだ
ろうと思う。沖縄問題という重大なことから
の中
出て来た一つの問題として、電波法の建前から
郵政大臣としては勿論反対せざるを得ない
ことであろうが、こゝまで皆さんにご苦労
していただいているのだから不満足ならと

いうことであろうと、私は政治的に了解して

間違いなかろうと思っている。これから

いろいろあろうが、暫定的に押さえるところも

押えておけばまあ仕方がない。しかし慎重

に細かいところは今後とも充分郵政当局と

連絡をとってやろうということである。」

問「外交防衛協議会でP3対潜哨戒機

移動の話が出たが、」

大臣「昨日の党首会談に併せて最近の微妙

なところも話しておいた。私としてはナハ空

港は全面返還もしてないということはまだ

下りていない。下りたと誤まって傳えられたようだが」

問「VOAについて米側は今傳えられている案

でよいのであって日本側に問題があったということか」

大臣「まだ折衝中であり、こちらがこれでよい

先方はそれでよいと言っているわけではな

く、双方見くらべてそれぞれ請訓している

わけである。昨日の党首会談、今日の部内打

合せ、これから午後の会議等をふまえて

午後のマイヤー会談をやって行くわけだ。」

問「午後の会議にはVOAは余り話題にならないのではないか」

大臣「そうだろう」

問「(VOAについて)年数にもふれているか」

大臣「年数もふれている。」

事務次官
外務審議官
外務審議官
官房長
官房総務参事官
書記官

安全保障課長

秘
無期限

情報文化局長
参事官
報道課長

兆、山崎、辻本

大臣記者懇談要旨　(5月28日)

愛知・マイヤー会談

OECDはすっぽかして、日英、日独定期協議には間に合わせるというのが最近までの私の心境であったが、やはり向うも念には念を入れて私とロンドースとの間で最後の仕上げをしたいということだったから、こっちの方に重点を置いて、今度は原発の方(日独定期協議)の方を切れるかどうかということになった。

本源農協定交渉に一番縁が深いのは山中君、大蔵大臣、

外務省

防衛庁長官それにVOAの関係で井手さんだが、これらの人と個別的ないし集団的打合わせはほぼ完了した。總理の意向もほぼ分ったので、これからラストタッチだ。

調印は
15日以降と云ったのは、日英、日独定期の日程があり、英国、ドイツに対する感触からそう云わざるを得ない。また、米も15日以降の方がいいということだから、それなら、予定を変更しないでぎりぎりながらできるわけだ。

マイヤーが今日もたらした
米側の意向は たまたま8日に私とロジャースが会うのだから その時最後の話を煮詰めてもらいたいということだから、極めて素直に両方意向が合致したわけだ。マイヤーも極めて朗らかで日本がこれを受けてくれれば非常にいいことだと云っていたし、しこりはなにも

ないと思う。最高責任者が最後に手を握り合うということにたまたま双方の意向が合致したということだ。

私とロジャースとの間で
しかし、まだ双方の間に巾があるから、押し合うへし合うということもあるかも知れないが、他方、マイヤーとの間でもwind upしようとはっきり約束したし、マイヤーも火曜までに必ず来ますと云ったし、これからどんどん煮詰めてゆく努力は予定をおりやってゆく。

マイヤーから、今日、米の立場につき回答のあったものもあるし、ないものもある。巾が残っているというのは、この意味だ。VOAだって、向うの希望はまだあるし、P3はまだはっきりしたものが出ていないし、請求ねもせばまってきているがまだまとまっていない。

若干の巾があるのは
まあ大体この三つだろう。

共同声明8項はこちらが強調しているところで、ロンポースとの話まで残るかも知れない。これが最も政治的に大きな問題だ。日本の対米交渉も、パッケージだから、まだピタリと合意した段階ではない。8項については米の理解は深まってきているがまだフーディングまで入れるところに来ていない。

今日最後に大いに苦情を云われたのは、どうしてこうぼろぼろ話が外に出るのか、これでは交渉が出来ないということだった。私は皆さんの代りに最敬礼しておいた。日本の新聞は、世界で一番よく働いて、一番有能な人で仕方がないじゃないかと云っておいた。

1つ警告から、外に出てしまってる不用じゃないかと云ってくるし、評会も刺激するし、本当に困る条文まで出てしまったではないかとぼやいていた。調印も延びたことだし少し休戦にしてもらいたいね。

企業の問題は、シュナイダーは那覇でここはどう解釈するのだ。これはどういう意味かと6時間もやられたと云っていた。まあお世辞かも知れないが、日本の外務省もよくやってくれたとの声もあったようだから、これは片付いたと云っていいのではないか。

VOAは、5年位暫定的に認めるということに対して米の態度はまだなかなかつよい。

企業についての書簡は実際上いつでもいいのだが、ここまで来たのなら、商工会評所の方も納得したのだから調印の時かその後に出せばいいのではないか。

至急

次官秘書官

大臣
次官
外務審議官
外務審議官
官房長
官房総務参事官
書記官

安全保障課長

秘
無期限

情報文化局長
参事官
報道課長

次官記者懇談要旨　（5月28日）

沖縄返還問題

（次官）総理から、VOA、請求権、核抜きの点でもう少し米側と話しを詰めるべきだとの意見があったので、交渉をもう暫らく継続し、大臣がパリでロジャースと会うので、その機会に話をすることになった。従って調印はパリでの話しの後になると云うのが現状だ。われわれとしては、日英、日独の定期協議をどうするのか調整中で、大臣が両方とも出席されることを原則にやっているが、大臣の帰りを少し早めなければならないのではないかとの感じを持っている。そうなると日独がチョット怪しくなるかも知れない。

（問）時間がまだあるのに、ロジャースと会って詰めると云うのは愛知・マイヤー会談は進展なしとの見通しがあるからなのか。

（答）いや、進展はあるだろうし、大臣があと2～3回マイヤーと会ってみれば話しが解決するかも知れないが、現在の日程上は8日にロジャースに会うので、最終的な詰めをやってから調印しようと云うことだ。

（問）山中長官が佐藤総理の親書をニクソンに渡すことになっているのに、愛知・ロジャース会談がそれ程必要なのか。

（答）いや、親書では具体的なものにはタッチしていないだろう。

（問）大臣はロジャースと懸案の全部について話しをするのか。

アンカ局長、北米一長、宰作長
条約局長、条約長、法規長
政策局長、政一長
経済局長、国機二長
西政二長

GA-5　外務省

GA-6　外務省

(答) いや、私は VOA、請求権 及び 核抜きの三点と了解している。それらについて米側からまだ回答が来ていない。

(問) P3について総理は特に触れなかったのか。

(答) P3は大臣から説明されて、総理も十分承知だと思う。

(問) 三点、云々は総理から言ったのか。

(答) そうだ。P3はVOAとのパッケージ~~で押して行けば、日本~~として処理したい

問題である~~ようのが~~

~~側の考え方はだいたい分く行くだろうというのが大臣の考え方だと思う。~~

(問) 日独定期協議は14、15日だが、それを一旦中止してまでも2~3日早く帰る意義はあるのか。

(答) それはある。われわれの方としてつらいのは、イギリスだけをやってドイツをやらないのは非常に抜いのだが、沖縄は、何と言っても最大の問題

であるし……。大臣としてもロジャースの会談に差支えない時期ならボンに行かれるだろうし、そこで行けなければ一旦帰国し、参院選挙後にでも国会や内閣改造とにらみ合せ、独側と協議の上、また行ってもらうと云うより他ないだろう。

(問) 今迄は、調印を米議会の都合で急いでいたわけだが、今度は総理の考えで一方的に遅くするわけか。

(答) アメリカとしても詰まった上でなければ調印は何日とはっきり言えないし、例え日本側で6月の第1週から多少遅らせても、米側としても余り問題はないように思う。

(問) 遅らすのは日本側の事情だけでか。

(答) こちら側の事情であり、またアメリカはアメリカ側の事情があるのだろう。

(問) 米側の事情と云うのは、米議会の日程上、6月後半になってもいいと云うわけか。

(答) いや そうではなく、交渉の進み具合からだ。向うから回答がまていないのだから。

(問) 先日の大臣懇談では、ロジャースと会うことは沖縄については余り期待していなかったようだが。

(答) 今日そう云う総理の指示があったので、急にそう云う心境にならねたのかも知れない。

(問) 下手にロジャースとなんか沖縄で会うようなことをすると、日本側が下りる場合却って下りにくくなるのではないか。

(答) いや、日本側の下りる限度はもう決まっている。

(問) 日本側がまとまる前の沖縄の話しをパリでやりたいと言っても、ロジャースはそれを受ける用意はあるのか。

(答) それはあるだろう。それに署名を如何なる格好でやるのか、その際の声明をどうするのかと云った点も話しに出るだろう。

(問) 大臣がわざわざパリんまで行ってロジャースと沖縄のことを話せば、どうしても他の問題、例えば繊維とかグレープ・フルーツとかが絡んで、不利な立場になるのではないか。

(答) いや、そんなことはない。パリでは交渉をやるのは沖縄問題だけだから。

(問) ロジャースの日程は判っているのか。

(答) 私の知っている限りでは、7、8日だけパリにいて、その後1～2日はヨーロッパにいるのではないか。

(問) 大臣は2日にわたってロジャースに会うわけか。

(答) いや、1日だけだと思う。

(問) 愛知・マイヤー会談で解決してしまったら、大臣がパリに行く前に調印することはあり得るか。

(答) いや、今の段階だと帰国されて後のことだと思う。

(問) 大臣は今日、野党に対して、調印が4月にズレ込むことはないと言っていたが、そうだとすると、参院選中か選後と云うことになるが、参院選後になる可能性はないか。

(答) それはないだろう。まあ、大臣がロジャースと話して、なるべく早く帰って来られた頃だろうと思う。

(問) 大臣がロジャースと会った後、事務レヴェルの詰めはどの位日数

がかかるのか。

(答) それは、これからの大臣・マイヤー会談の経過を見た上でなければ判らない。話しが十分詰って、ロジャースとは本当に1点か2点だけと云うのであれば、そう時間はかからないだろう。

(問) 丁度、参院選の投票日の直前と云うことにはならないのか。

(答) いや、そこまではいかないのではないか。

大臣秘書官	事務次官	官房長	情文局長
	外務審議官	官房総務参事官	参事官
	外務審議官	官房書記官	報道課長
			国内広報課長 海外広報課長

外務大臣記者会見記録（6月17日）

（~~沖縄返還~~協定調印後使用する条件で、午后8時に行われた。）

アメリカ局長 北米一長 北米二長 安保長
条約局長 条約長 法規長

大臣「只今、沖縄返還協定の署名を無事終った。私としては一昨年6月に米國に赴き、大統領にお目にかかっていわゆる核ぬき、本土なみ、72年返還の最初の口を切った。11月には佐藤總理にお伴して共同声明が発出されたわけであるが、それから数えて1年半余りの苦労が

実った次第で私個人としても、まことに欣快とするところである。これまでの皆様方の長い間のお力添えに対し心からお礼を申し上げる。

沖縄返還といういわば歴史的大事業、つまり一度戦争によって失った領土が平和的な話合いで返還が認められるということは何んとしても歴史的大事業と思うが、これは戦後の日米両國間の友好信頼関係があったればこそでき上った事業と思う。

しかし、私は戦後における日米友好信頼
関係のこれまでの結果であり結論であるとは思うが
同時にこれを結論にすべきではなく、
むしろ、これをこれからのスタートにしたい。
そこにしかるべき大きな意義を生み出すようにし
たいと考える。要するにこの事業をこれから将来長く
續けなければならない両国の友好親善関係
の確固不動のいしずえとしたい。そういう意味で新しいスタート
としたいものと考える。

この協定の内容については、そもそも最
初から核ぬき、本土なみという大原則を置く
ことが出来、この点については更にくわしく
沖縄批准国会で充分ご審議をいただけ
ることだと思う。
沖縄の百万の県民の方々については、今まで
長い間非常なご苦労を重ねてまられたその
心情に深く思いをいたして、協定作り
に当った私どもとしても更に本当の実質
的な本土なみの県民生活が確保できる

5

ように内政上のいろいろの問題についても

併せてできるだけの努力を重ねて行きたい

と思っている。」

問「ニューヨーク・タイムス紙は、国防、国

務省が沖縄の核移送を勧告したと傳えて

いるが…。」

大臣「公式にはまだ来ていない。

言って

今日米両当局として言えることは、協定第

7条で、核ぬきの問題は十分確保され

双方で合意できており核ぬきは

ていると申し上げられることだと思う。」

至急

大臣秘書官	事務次官	官房長	情文局長
	外務審議官	官房総務参事官	参事官
	外務審議官	官房書記官	報道課長
			国内広報課長
			海外広報課長

外務大臣記者会見記録（7月5日）

（初閣議後）

大臣「私はここ（外務省）に~~官をはたこと~~（勤務する）

二回目で、一回目は昭和16年から二年間

外務書記官の資格で南京出張を命ぜられ

中国服を着てよく似合っていたものだ。

さて、当面は陛下の御外遊をつゝがなく

（とり行ないたい）

と念願している。第二は、沖縄国会の国会

対策が中心になろう。第三の問題は日米経
済調整の問題。第四は長期、短期の問題に
なるが中國との調整の問題ということになり
これら諸問題に精力的に取組んで行く。
佐藤總理は私をここ(外務省)に連れてまる
ことに執念を持っておられ、数年前、私が党から
内閣の方に帰るとき、總理は私の欲する
いかなるポストでもよいと言うので、いろ
いろ考えて建設大臣を希望したところ、外務
大臣か大藏大臣かその中の一つだという

ことで、まあ大藏大臣の方が楽だと思ってその
方を選んだが、今度は到頭つかまった。」
問「14日からASPACがあるが、大臣は御出席されますか。」
大臣「私は30才ぐらいから胆のうに砂がある
ということだったが去年の秋精密検査の結果
胆石ということであり、それを暇なときに取り
出したいと思っているが ~~すことにしていたところ~~、暇の時というのは
總理とも相談したが今夏ということにな
った。手術し完全回復には45日間を要す
るので日米経済貿易合同委員会、陛下のお伴を考えると

二、三日中に入院しなければならないかも知れない。いずれにせよ医師に相談しなければ。」

問「大臣が行かれないときは誰かが代わりに行かれるか。」

大臣「またASPACの話まで聞いていない。」

問「沖縄国会に臨む姿勢について。」

大臣「誤解があるようなので国会や国民に対してその解明に努めたい。あれだけのスケールの島々が友好裡に返還されるのは世界史上

初めてのことで、まだ多少キズがついているが、これは返還後に解決した方がよい。~~私達の~~

とらえ方は、全面講和か多数講和かという議があったが、われわれは多数講和をとり、それが今日日本を大変に幸せにしたわけである。そういうように今度も誤解があるのであればその解明に努めるという考え方である。」

問「円対策に関連して日米経済~~外交~~関係の調整は具体的にどういうように進められるのか。」

大臣「米國との間に先づ繊維問題がある。
7月1日から自主規制が実施されたが、これで
この問題が解決されたという状態ではない。
かゝる状態が経済問題に止まらず、日米間
の基本をゆるがすような事態になって行く
恐れなしとしない。また米國は失業問題
があり6.2%とかなり失業率は高く、米國の
中には、これは日本の輸出のためだという
見方をする人もある。同時に日本が諸外
國から批判されているような問題があれば

この際 ~~[illegible]~~ 払拭 しようということである。9月
の日米経済~~委員~~ 貿易会同 会は良い機会だからこの
機会に経済上の誤解を一~~掃~~ 掃 したいと考え
ている。いわゆる八項目は一つ一つ実行し、
そこまでまだ行かないものは八月早々までに具体
的に公表できるようにする。
とにかく最近、日米國民間においてフィーリング
のおかしなところがある。日本の外交の
機軸である日米間にいささかでも亀裂
が生じることはさけなければならない。

問「繊維問題の解決策について」

大臣「いろいろ考えているが、ここで申し上げるわけには行かない。自主規制の推移をみながら米側の誤解に基く点も解明しなければならないし、わが方も正すべきことは正すということである。これは自主規制のことだから日本業界の協力が非常に大きな要素になって来るわけだが幸い実力者たる大 大臣が通産省に~~そき~~こられたので相協力して行きたい。新通産大臣もこの点に深い理解を持っている。」

問「形だけでも政府間協定を結ぶということも考えられるが」

大臣「現在そのようなことは~~[illegible]~~念頭にない ~~全頭そんなことはない~~」

問「秋の国連総会の中国代表権問題について」

大臣「これからの勉強だし諸外国でもまだ固まった考え方を出していない。時間もあるし充分慎重に検討する。」

問「米側との調整は行われるのか」

大臣「意見の交換はある。世界情勢を日本から見回わして世界が

こう動いているから、こういう動き方をしよう
というような発想法を少し変えて、今の
日本の一挙手一行動が世界の隅々に影響
するし、また世界の問題がわが国にはね返って
来るということを考えると、~~世界の平和、世界~~
~~の繁栄~~ むしろ世界の頂点に立って世界
を見回わし、その中の一コマとして自分を
捉えて行くというような発想の轉換を
必要とすると思う。そういう広い考え
方で世界の平和、世界の繁栄に日本が

積極的貢献をする、そういう世界的役割
が日本の発展にかゝっているという考え方に
立って行かなければならないと思う。

マイ・ホームとか「二人のために世界はある」
と云う考え方ではいけない。
~~かは~~ アワ・ホームと考え ~~にして~~ ~~また~~ 世界のため
世界を
に日本はあるという考え方で行かないと